

全体会午後の部 I

司会者 それでは定刻がきたので着席してください。ただ今より、全体会午後の部 I を行いたいと思います。午後の部の司会を担当させていただきます J 中学校 3 年の k, Y 中学校 2 年の l です。よろしくお願いします。午後の部は、前半の I と後半の II の 2 部構成になっています。最初に意見発表を 3 本していただき、その内容を通して、みんなで人権について語り合い、みんなで本当の笑顔を輝かせていきたいと思いますので、みなさん、どうぞご協力、よろしくお願いします。まずは前半 1 本目の意見発表です。C 中学校 3 年 m さん「私の思い」です。よろしくお願いします。

私の思い

C 中学校 3 年 m

人は、心のどこかに差別する心がある。その心が差別を生み、差別する人がいることで苦しむ人がいる。人権問題は、決して遠くにあるものではない。常に自分の身の回りで起こるものだ。

私には自閉症の弟がいる。世の中の人、どのくらい自閉症について理解しているだろうか。コミュニケーションを取るのが苦手な自閉症の子たちにとって、周りの人の気持ちを推し量ったり、テンポを合わせて行動したりすることは難しい。そんな特徴のせいで、周りの人は自分とは何かが違うと感じてしまう。

その子が近づいてきたら、ちょっと距離を開ける。その子の発言にクスクスと笑う。そのたびに私は腹立たしくなる。その子は何も悪くない。周りが無理解なだけ。こんなの間違っている。

でも、実は私もその中の一人。それが現実。そして、そんな自分が悲しくなる。

弟に対しても同じ。理解しているつもりでも、つい心ない言葉をぶつけることがある。たとえば、あわただしい朝に、母の手をわずらわせて、弟がなかなか着替えないとき。買い物に行ってお店の中を走り回るとき。ファミレスで声を上げて騒ぐとき。言うことを聞かない弟に、言葉がとがる。弟の行動は、自閉症の特性であり、個性の一つだ、と頭で理解していても、自分の中のイライラや、周囲の人の視線が、私を混乱させ、嫌な言葉が私の口から出てしまう。

そして、私自身、今のままでいいのかと、自分の中の差別する心に、苦しくなることもあった。



けれど、養護老人施設での職場体験、学校での道德の授業、いろいろな学習を重ね、そして、弟との生活を続けていく中で、気付いたことがあった。「人はそれぞれに、その人らしい良さを持っている。人は一人ひとり違う。相手に向き合うことが大切だ。」ということだ。

そう思ったのは、弟を迎えに、幼稚園に行ったことがきっかけだ。帰り際、私と一緒に帰ろうとしていた弟が、幼稚園の庭で、一人ぼっちでぽつんと立っている友達を見つけた。弟は急に私のそばを離れ、友達と手をつなぎに走っていった。衝撃だった。私にはないまっすぐな優しさを持っていると感じた。自閉症の弟は人の気持ちに立てない、という考えは間違いだと気付かされた。

人はすぐ思い込みで判断する。そして、自分と同じか違うか、そのことで人を判断しがちである。けれど本当は一人ひとりの中身を見ることで、その人自身を感じることができるはずだ。障害者・健常者と区別せずに、一人の人間としてその良さを感じ取っていきたい。そして、そのことをいろんな人に知ってもらいたい。自分が知るだけでなく、行動していきたい。

今日本では、百人に約一人の子供が自閉症だといわれている。弟は何も特別ではない。ごくごく普通のことである。私は弟の姉として生きてきて、自閉症の人を手助けしたいと思うようになった。今もその思いは変わらない。変わることはない私の思いである。

私は、将来、言語聴覚士や臨床心理士という仕事に就きたいと思っている。自閉症児にとって、自分の思いを言葉で伝え、コミュニケーションの仕方を身につけることは簡単ではない。支えている家族も、たくさんの悩みを抱えている。私はそんな人たちの力になりたい。自閉症の子の未来を導くような存在になりたい。

弟が、笑顔で生きていける社会を作ること。それが、だれもが自分らしく生きていく社会の、第一歩ではないか。障害があっても同じ。たくさんの人が、幸せで笑顔があふれているような未来を、私たちが作っていきたいと思う。

それが私の思い。変わらない私の思い。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。続いて、前半2本目の意見発表です。C中学校3年さん「僕のばあちゃん」です。よろしくお願いします。

僕のばあちゃん

C中学校3年 n

僕は、3年生になって、高齢者問題につい

て学習しています。この学習で一番初めに知ったことは、高齢者虐待問題でした。その内容は、お年寄りの方を叩いたり、ベッドに縛りつけたりなどの身体的虐待やどなる、ののしる、無視するなどの心理的虐待、その他に性的虐待や経済的虐待などがあり、とても残酷なものばかりでした。この話を聞いた時はそのようなことをする人間が存在するなんて信じられませんでした。正直、人のすることでないと思いました。さらに、自分の子どもや子どもの妻、そして、孫から虐待を受ける場合が非常に多いということを知りました。虐待を受ける高齢者の人たちの心境は、とても複雑で苦しいものだということを強く感じました。虐待の要因に介護疲れがあります。生きていく上で、様々な事に支障をきたす高齢者の方には、介護は必要不可欠なものです。しかし、介護という仕事は、とてもハードな仕事だと思います。介護する人にも大きな負担がかかります。僕は、介護という仕事の大変さや難しさを知りました。



僕は、高齢者問題を学習した時、自分のばあちゃんとの思い出が一番に頭の中によみがえってきました。僕のばあちゃんはもうすぐ80歳になります。僕の両親は共働きで、僕は小さい頃からずっとばあちゃんと一緒にいます。ばあちゃんの仕事場で一日を過ごすこともありました。ご飯を食べる時も散髪に行

くときも生活全般にわたって、いつもばあちゃんと一緒にいた。僕は、いつも僕のことを大切に想っていてくれるばあちゃんが好きでした。しかし、僕が大きくなるにつれて、だんだんとばあちゃんに対して、素っ気ない態度で接し、ばあちゃんをうつとうしく思う気持ちが芽生えてきました。そして、ついにはばあちゃんに冷たくあたり、暴力をふるってしまいました。ばあちゃんは、足をすりむくケガをしてしまいました。その時、僕はとても怖かったです。いつも笑顔だったばあちゃんの顔から笑顔が消えてしまいました。「僕は、どうしてこんなひどいことをしてしまったんだろう。」という後悔の気持ちと罪悪感で胸が一杯になりました。そんな悲しい出来事があったのに、ばあちゃんはいつもと変わらない様子で僕に接してくれました。そんなばあちゃんの姿を見て、僕はばあちゃんを決して傷つけたりせず、優しく接すると誓いました。

僕のばあちゃん、すべての人たちが幸せになるために、僕たちはもっともっと学ばなければいけません。今、C中学校の3年生では、総合の時間に福祉体験学習を行っています。実際に、アイマスクや車椅子、高齢者疑似体験などの具体的な体験を通して、相手を思いやる事や相手の立場に立って優しく接することの大切さを勉強しています。まだまだ未熟な僕ですが、一生懸命に福祉体験学習に取り組みたいです。僕のばあちゃんはまだ仕事を続けています。ずっと元気で仕事をしてほしいです。ばあちゃんの笑顔をいつまでも守っていきたいです。ばあちゃん、これからも長生きしてください。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。続いて、前半3本目の意見発表です。G中学校3年0さん「家族の生き方から学んだこと」です。よろしくお願いします。

家族の生き方から

学んだこと

G中学校1年 0

私の家は、散髪屋をしています。父・母・祖父・祖母の全員が散髪の仕事をしていて、毎日とても忙しそうに働いています。父と母は、月に一度、店の休みの日である月曜日を利用して、鳴門の「草の実学園」という障害者が通う施設に散髪をしに行っています。この散髪のボランティアは祖父が始めて、今は父と母が中心になって活動しています。

小学校5年生の夏休み、私は家で一人になるのが嫌だったので、父と母についていくことにしました。車で30分、到着して施設に入っていくと、みんなが一斉に私の方を見てきました。最初はとても怖くて、両親にしがみついていた私ですが、二人が散髪をしに行くと、私は一人になってしまいました。



別の部屋で宿題をしていると、介護福祉士さんが来て、「障害のある人は、わざとあなたの方を見ているんじゃないよ。どんな子が来たのかなと興味を持って見ていただけだから怖がらないでね。」と優しく話してくれました。その後も介護福祉士さんが、人権のことや、障害のある人のことなど、たくさん話してくれました。一言に『障害』といっても、目が見えない人もいるし、耳の不自由な方もいて、

いろいろな種類があること、そして、その程度も個人によって様々であることを教えてもらいました。障害を持つ人はみんな、自分でできる範囲のことを一生懸命しているそうです。そこで、私たちが、少し手助けをしたり、優しい気持ちで接したりすれば、できることがもっと広がるのではないかなと考えました。

施設を出るとき、一人のおじさんが近づいてきて、腕を私の方へ出してきました。すると母が、「その人は腕をさすってもらうと気持ち楽になるから、少しさすってあげ。」と言いました。それで、少しだけさすってあげました。

すると、そのおじさんは笑顔でほほえみ、私が帰るときに、大きく手を振って見送ってくれました。約2年前のことですが、今でもはっきりと覚えています。

今まで私は、障害のある人に対して「怖い」とか「不安」とか、そんな気持ちでいっぱいでした。噂や世間話、テレビなどの情報を聞いて、私が勝手にそう思い込んでいたからだと思います。でも、初めて「草の実学園」に行って、短い時間ですが一緒に過ごすことによって、私の気持ちは変わりました。

みんな同じ人間で、それぞれに個性の違いがあるだけなんだ、差別されることなど一つもないんだと思うようになりました。この日、介護福祉士さんが話してくれたこと、そのあと考えたことは、ずっと私の心の中に残っています。

今でも、私の家の散髪屋に障害者の人が来てくれることがあります。足の不自由な人や知的障害がある人が店に来ると、私の家族は、体を支えてあげたり、車で送ってあげたりしています。私の家には、いくつかのユニバーサルデザインを取り入れており、体の不自由な人も便利で使いやすいように工夫しています。いつ、だれが来ても笑顔で接するのが、私の家のきまりです。

障害者差別のほかにも、まだまだたくさん

の差別があります。中学校に入学してからの人権学習の中で、学年主任の森口先生が『差別やいじめは「今」「ここ」にある問題だ。だからこそ、私たちは人間性を磨き、自分の差別意識を洗い続けるために、人権学習に徹底的に取り組まなければならない』と話してくれたように、私は正しい考え方を持って行動していき、私の中にある人権意識をもっともっと確かなものにしていきたいと思います。

他の人を偏った見方で見たり、傷つけたり、おとしめたりすることが間違っているのだと気づき、正しい考え方を持つことで、いじめや差別が少なくなると思います。また、小さいいじめや差別を見逃し、許す集団や社会は、他の差別も見抜くことができず、差別を許す醜い心の集団になってしまうと思います。

これからの自分は、相手のことを思いやり、大切に思う気持ちを忘れずに、生きていきたいです。こんなに大切なことを教えてくれた父、母、そして施設の介護福祉士の方にはとても感謝しています。そんな「大切なこと」に気づいていない人にも人権の大切さやいじめや差別をされて傷ついた人の心を教えてあげたいと思いました。そして、一人一人が気持ちよく過ごすことのできる仲間や集団、社会を作っていきたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。それではこれから、意見発表を通しての討議にうつりたいと思います。発表についての感想や意見交換、参会者のみなさんの思いを語っていただければと思います。

また、マイク係として、S中学校3年のpさん、T中学校3年のqさん、T中学校3年のrさんの3人がフロアをまわります。なお記録の関係上、発表者は学校名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願いします。

C中学校 s 3つの言ってくれた作文の中で、僕が1番心に残った作品は、n君の「僕のぼあちゃん」です。僕もちっちゃい頃育った環境はn君と一緒にずっとおぼあちゃんと一緒でした。でも、まあ、ほとんど一緒なんですけど、僕も大きくなるに連れて存在がうっとおしくなるんですよね。お節介を無駄に焼いてきたり。俺はもう大人になってきとんやけん、もうほっといてくれみたいになるんですよ。でもそういう心配してくれる人がいたら安心するんですよね、人って。やっぱり心配してくれる人がいなかったら俺はほっとかれとんやなって思ってしまうんですけど、心配してくれたら、なんて言うんですかね、安心して、僕は大事にされとるけん、こういうことしてくれるんやなって、不安がなくなりますよね。ほなけん、そういう不安をぶつけてしまうんですよね。ちょっとよくわからんですけど、とりあえず、n君が言ったようなことは僕の心にはしっかりと響きました。

H中学校 t 私の母が介護福祉士という仕事をしています。3つの作文、C中学校のn君の「僕のぼあちゃん」の作文にもあったように、介護の仕事ってものすごくハードな仕事なんですよ。それで今、母もちょっと経済的に不況で仕事がなくてしょうがなくその介護系の仕事を選ぶという人も結構いるそうなんですけど、芯が強いとかかほんとうにお年寄りたちを助けたいという人でなかったら長続きしないようなそれくらいハードな仕事だそうです。それで、そういうハードな仕事を続けるというのも疲れるだろうし、その仕事を選んだ母を誇らしく思っています。私も正直言ってそんな介護福祉士になるとか考えてないんですけど、とりあえず私は大人になってもこういう人権だとかお年寄りとかに関する仕事に就きたいと思っていますので、3つ

の作文で、最初の作文だったら、言語聴覚士や臨床心理士という仕事に就きたいとか、あと最後の作文でもお父さんたちが障害者の方々の散髪に行っているとかそういうふうに人権とか障害者の方やお年寄りの方とよく触れあうような仕事に就いている方々の話が聞けてうれしかったしそれにものすごい立派だと思います。私もそういうような人を目指したいです。



司会者 他に意見はありませんか。私は初めに発表してくださったC中学校のmさんの発表が心に残りました。私の友達にも、本人から聞いたわけではないんですけど、自閉症の子がいて、同じ部活の子なんですけど、その子が最初会った時は何でここでこういうことを言うんだろうとか思ってしまったって、その子に他の子よりちょっと厳しく当たってしまったことがあったんですけど、今はずっと部活を一緒にしてきて、自閉症だということも知って、それでこの子の個性なんだなって思うことができるようになりました。私もmさんの発表を聞いて、そのときのことを思い出しました。何か意見はありませんか。

C中学校 u n君の作文を聞いてなんですけど、やっぱり僕のおぼあちゃんとかもちっちゃいときから一緒にいるんですけど、ちっちゃいときはすごい好きで一緒にずっと

といたんですけど、だんだん年齢が上がっていくとともにうっとおしくなって、つい強い口調で言ってしまったたりしておばあちゃんを傷つけることとかもあるんですよ。最近とかは勝手に部屋に入ってきたりとかして、うっとおしいんですけど、そうやって世話をやいてくれたりしてくれる人って他にいないんですよ。だからもっとおばあちゃんに優しく接したり、強い口調で言ったりせず、これからはおばあちゃんを大切にしていきたいと思いました。



G中学校 v 一人目のmさんの意見にあったように障害者や自閉症のことを知らないばかりに、自分とは何かが違うと思って、その人から離れてしまうったりするっていうところがあったんですけど、なぜ人は自分と違う者を遠ざけようとするのか、なぜ自分とは違う者を怖いと思ってしまうのかっていうことについて考えてみました。逆に私たちって怖くないものとだったら近づけるし仲良くできるじゃないですか。だったら障害者の人たちを怖くないって思えるようになったらいいんですよ。でもほんとには全然怖いとは無縁の人たちなんですけど、そこは分かってほしいんですけど。じゃ何で怖いと思ってしまうのか、それは自分が自閉症とか障害っていうのを知らないからなんですよ。自分の知らない領域のことをその場で簡単に言い表せる表現としたら、

「怖い」とかという表現だと思います。で、だから、怖いから近づきたくないっていう短絡的な思考に走ってしまうというか、経験はありませんか。無反応？。怖くないっていうことはすなわちそのことをよく知っているから怖くないって言い切れる訳じゃないですか。それは怖いっていうそのことに対する感情に自分の知識が打ち勝っているということに言い換えられると思うんですよ。それでそこから2人目、2人目じゃない3人目かな、oさんという人の意見の中で、障害者の人たちと一緒に過ごすことによって不安とかがなくなっていったところで、やっぱり一緒に過ごす、一緒に空間にいることで知識が深まって、その知識が深まったイコールこわいという感情にその時点で知識が勝ったんですよ。だから怖くなくなったという。私は小学校、4年生の頃からかな、鳴門市にある児童デイサービス「きりん教室」っていうところの「S先生」という先生と知り合いで、夏休みに入って1回教室に手伝いというか遊びに行つて。「きりん教室」っていうのは、児童デイサービスというところなんで発達障害、自閉症とかアスペルガー症候群とか、そういう発達障害のある子ども達が社会に出て行くときにどうやって、他人とどうやって接するのかや自分の状態のことをどうやって表現するのかを勉強するところだっていうのを職業体験の時に「S先生」にわがままを言って体験に行かせてもらったときに、そういう話を聞きました。やっぱりその教室でも泣いたり騒いだりとか他の同じ障害をもった子とかともトラブルがあったりとか、先生とか私にも反発してきたりとかもあるんですけど、そういう行動一つ一つ含めて全部その教室でやっているその子たちの行動は全部自然なんですよ。何でそう言えるかっていったら、自分が小学校の時に下の学年にその教室に通っ

ている男の子が同じ小学校で、やっぱり似たような行動は行動なんですけど、受ける雰囲気は教室にいる方がのびのび生き生きしてて、学校でどこか窮屈そうな感じとか、人の目を気にしすぎているかなっていう感じは全くなくて、その教室には分かってくれる人だけしかいないっていうかその障害をちゃんと知っている人がたくさんいて、だから分かってくれる人がいる空間だったら彼らも自然に振る舞うことができるし、それを学校の生徒さん全員とか先生とか地域の人とか社会とか果ては世界の人がある障害のことをきちんと知ってくれたら彼らもそんなよそで窮屈そうなおもいをする必要もないし、窮屈そうなおもいをしないイコール自然体でいられるってことだから、もっと近づくきっかけが増えるんじゃないかなって思います。長くなりました、すみません。



A 中学校 w G 中学校 s さんの作文を聞いて、僕が思ったことは、確かに障害者の人が周りにいたり話したりすると確かに不安がこみ上げてきてちょっと怖いけど、それはたぶんみんなあまり障害者の人とたぶん話す機会がなくて、それで不安っていう気持ちが生まれるんで、じゃ、まず話しかけるんじゃないかって、その一人ひとりの個性だと分かってあげて普通に接していったらだんだん仲もよくなってきたら障害者への

偏見とかもなくなってくると思いました。

H 中学校 d 2つあるんですけど、あ、えっと1つです。nさんの「僕のばあちゃん」を、あ、2つあります。まず1つはさっきも出ていたんですけど、私の小学校では1年生から6年生までが、近くにある養護、障害者の養護施設と交流が年に1度あるんですけど、そこでレクリエーションをしたりとか、みんなが楽しめるようなゲームとかを考えてしてとても楽しかったし、なんか来てくれたらほんまにうれしいとかとも思ったりして、溝っていうか意識っていうのがほんまに普通の友達みたいに思ったし、6年生になると1年生の時から毎年来てくれてたから6年生の最後の交流会っていったらごっつい悲しいて会えんようになるんじゃないかなって思ったら、また来てほしいなって、卒業するんやけどまた会いたいなって思うし、H中学校でも交流会もしたり、手伝いに行ったりもするんですけど、小さいときから障害者のみんなと一緒に体験してきたから怖いっていう気持ちもないし、不安があるっていうそういう気持ちもちよつとはあるんですけど、でもだんだんなくなっていくのでちっちゃいときからの交流が大切だなと思いました。で、もう一つ、nさんの「僕のばあちゃん」を聞いて、私のお父さんの両親は近くに家のすぐ裏の方に住んでいるんですけど、母方の両親はちょっと離れたB町に住んでいるんですよ、私はHに住んでいるんですけど。おばあちゃんが私が小3の時に亡くなって今はおじいちゃんが一人で暮らしているんですけどそこは吉野川の土手の近くで、よく雨が降ったりしたら水が来るんですよ、浸水とかして。一人暮らしやし、たいへんやけん、家に来てほしいんですけど、でも「家族に迷惑がかかるけん行けん。もう一人でもいいよ。」とか言ってくれるし。あまり遠くて行けない

んですけど会ったときめっちゃうれしいけん。亡くなったおばあちゃんの時もちっちゃくて小学校低学年の時だったのもう危ないってときに病室にお見舞いに行ったときに、ふざけてしまったんですよ。最後の時も会えなかったし。最後の時も最後まで迷惑かけてしもうたけん、一人暮らしのおじいちゃんも大切にしたいと思いました。

T中学校 x 意見発表の3番目に読んでくれたoさんの作文を聞いて、お父さんお母さんがボランティアで、ボランティアというかわゆる障害のある人の所に散髪をしに行くっていう話を聞いて、自分の話をすると、僕の将来の夢っていうのは今野球をやっているんで、一応夢は高くプロ野球選手っていう夢を持っているんですけど。そのもしなれなかったらっていうのも考えたときに、さっき誰かがいろんな人権のことに関わった仕事をしたいって言った人がおったと思うんですけども、僕もその考えと全く一緒に、人権について、特に先生になるっていうのはなかなか難しいと思うんですけど、今日、大湾さんも来てくれて、ちょっと講演の講師になりたいっていうのも若干夢にもっとんで（会場から拍手）、なので、今は部落問題を重点に置いて勉強していきよんやけども、この3つの作文は特に高齢者問題とか障害者問題のことを話していたので、一つだけちょっとT中学校で今年あった、あまり大きな問題にはならなかったことなんやけどあったことをちょっとしたところであったことを手短かに話してみたいと思います。7月か6月かちょっと忘れたんですけど、野球を部活動でしててその日とても暑かったんですよ、30℃とか33℃とかあって。後輩と一緒に、T中学校は全校で95人とかめっちゃ少ないんで先輩後輩とかがなくてすごく仲がよくて、先輩に対してはため口で、仲がいい学校なん

で。後輩と顔を洗ったりしてて、僕が手洗い場があって冷水器があって冷水器の水を飲んで休憩している時に1年生が4人おったんですよ、1人の子が顔を洗いよる時に「おい、おまえ、『障害者洗い』してみい。」って言ったんですよ。こいつ何言いよん、と思って。「『障害者洗い』してみい。」って



言われてその子がものすごい洗い方したんですよ。それを見て恥ずかしながらに何も言えんかって、ものすごい大切にしていた後輩なのに、なんかその日を境に特別な想いを持つようになって、その言った子はたぶんそこまではそれほど重く思っていないと思うんですよ。今でもまだもしかしたら言いよるかもしれんし。中学生友の会と高校生友の会というのがあるって、僕は2つとも参加しよるんですけど、高校生友の会の時にある先生にそのことを話して、土曜日、日曜日ってあいて、その次の月曜日にその子のそのことを言うたんやけど、仲がいいもんやから、あんまりそんなことを真剣に言っても真剣に受け止めてくれんので、非常に今でも困ってはおるし、なんなら学校全体でそのことを取り上げてもいいんじゃないかと思うんですけど、身近にそういう問題みたいなのがほんとにあったので、T中は90何人とかそんなちっちゃいところでもあったんで、そういう差別問題とかはいろいろあると思うんで、僕は中3まで勉強してきてそこはよかったなと思うんで、

一緒になって笑いよる子もおったけど、「それは違う。」って言えなかったけど、心の中でそれは違うって、その後にも注意ができたんでよかったなって思えたんで。そういう感じです。

司会者 私には小学3年生の弟がいます。高浦中学校の矢上さんの作文を聴いた時に、私の弟は自閉症ではないのですが、普通の学級で勉強していてもついていけないことがあって特別支援学級に今入っています。去年の中頃から入っているんですけど、その学級ではすごく楽しそうで、たくさんの友達が、でも7人ぐらいしかいないけど、とても楽しそうなんです。普通の学級の友達とも遊べてるし、差別を受けなくてよかったなあって安心なんですけど、家でもちょっとおかしいなあって思うことも時々あるんですけど、でもだから弟が嫌いって言うわけでもないんで、もっと弟に優しくして弟を大切にしていきたいなと思いました。

S中学校 h 私にはいとこが2人いて、2人兄弟のいとこがいて、二人とも障害があつて上の子は女の子で下の子は男の子で、女の子は軽い障害で、男の子は重度の障害があります。男の子の方は普通の小学校とか中学校に通えないんで、特別支援学校に通っているんですけど、女の子は普通の中学校に通っていて自分が2年生の時に1年生で入ってきたんですけど、その夏、コンサートみたいなのが開かれて、全校生徒が体育館に集まったんですけど、その子の学年の女の子2人がいとその名前を呼んで自分の所に連れてきてそこまではよかったんですけど、自分が呼んでいるのに来たら気持ち悪いみたいな感じで逃げたりする場面を見ました。それで前の自分だったらすぐに言えてたんですけど、みんながいるし、

それに上の子もいるっていう状況だったので言いたいけどすぐに言えなくて。自分はそういう状況でも絶対言えるって思っていたのに結局言えない自分がいて、気づいたらいとは普通に笑っていて自分の元いた場所に戻っていて、何をされているか分かっていないのかよく分からないんですけど、それでも笑顔でいるところを見て、ちゃんとその場で注意できなかった自分がすごく無力に思えて、すごくつらくて、今はそういう場面見てないけど、何であのとき言えなかったのかと今でもずっと後悔してて。これからそういう場面に会うか分からないけど次そういう場にあつたらいとことか関係なく誰でも周りに誰がいてもどういう状況とかも関係なく言えたらなって思います。それともっと最初に言えてたらよかったんですけど、障害のある人に対して障害者っていう言葉でひとくくりにしないで、できれば障害のある方とか、障害のある人って表現してもらえたらなって思います。



C中学校 y n君の作文を聴いて、私にもおばあちゃんがいて小さい時からすごくお世話になったんですけど、おばあちゃんもだんだん高齢になってきたり、私もだんだん年をとって大きくなると力とかもだんだん強くなるし、考えることもちっちゃい時はおばあちゃん好きということだけだった

んですけど、今は「静かにしといてよ」、「何も言わずに黙っておいてよ」、と思うことが多くなって、うっとおしいなって感じたりすることもあるんですけど、今までおばあちゃんにたくさんお世話になったし、もちろん今もいろいろなお世話をしてもらっているんで、これから私はそういうことに気づく年になって、もっともって恩返しをしていけるように、大人になったら働いたりしてお金ももらったりすると思うので、そういう時とかに今までお世話になった分をおばあちゃんに恩返しできるようにしていきたいなと思いました。で、作文を聴いて、もっともってそれを強く思うようになりました。ありがとうございました。

T 中学校 z C 中学校の n 君の作文を聴いて思ったことは、さっきも結構意見があったと思うけど、僕のお母さんは今は違うけど前の職場が養護施設というか老人の人の世話をするところで、そのときによく聞かされていたのが、今僕のお母さんが担当しているおじいちゃんやおばあちゃんたちが、今ごっついかわいいというか、お母さんがお世話していて楽しいというかわいいう意見をよく聴いていて、そのときは「えー」とか「そんなことないでー。」とか写真とか見せてもらって言っていたんですけど、僕もこういう機会とかいろいろ増えてきて考えるようになって、母は、おじいちゃんたちの容姿とかを見てかわいいとか言ってるのではなくて、世話をしながら感じた、なんて言うんでしょう、そのやさしさというか、母も結構仕事がちょっとうまくいってなくて、その前で泣いてしまったときがあったらしくて、そのときに慰めてもらったというのを後から聞いたんですけど、そういう人たちの心の優しさとか、そういうものを見ぬける母を尊敬したいし僕もそういう大人になりたいです。

以上です。

G 中学校 a a 僕は「僕のばあちゃん」という発表を聴いて僕もお母さんの仕事の都合で、小さい時からほとんど毎日おばあちゃんちに預けられていて、やっぱり僕もそのときはおばあちゃんのこと好きだったんだけど、最近は口うるさいなあとか、ほっといてほしいなあとか思うこともよくあって。でもそれは自分を心配してくれて言っているわけだから、おばあちゃんをもっと大切にしていきたいと思いました。



G 中学校 a b 「僕のばあちゃん」という発表を聴いて、私にもおばあちゃんがいるんですが、すごーい耳が遠くて、おばあちゃんがテレビを見ている隣の部屋でいると、テレビの音量がすごーい大きくて、勉強もろくにできんような状態で、すごーい聞こえてきておばあちゃんにちょっといらっとするようなことがあったんです。この前おばあちゃんの心臓の先が細くなっている病気になって入院したんですが、この前手術があって、おばあちゃんの血管はすごく細いので普通の人だったら5分くらいで終わる手術が2時間くらいかかってしまったんです。そのときの状況をおばあちゃんから聞いている時に、おばあちゃんがたぶん何気なく言った言葉と思うんですけど、「咳をして死にそうだったけど、a bがおるけん、がん

ばれたわあ。」と言ってくれたんです。その言葉で私はとってもうれしくなって、おばあちゃんの嫌なところとかいらったこととか、みんな無くなってすごいうれしかったんです。だからそんな言葉一つで私はおばあちゃんをもっと大好きになったし、これからももっと頑張っていきたいと思ったので、言葉はとっても大事ななと思いました。



G 中学校 v ちょっと前の意見に将来人権関係の仕事に就きたいという意見がいくつか出てたと思うんですけど、私は将来臨床美術士、クリニカルアーティストとも言うんですけど、その仕事に就きたいと思っています。いや、むしろ絶対なります、なってみせます。期待してください。それで何で診療心理士とかいろいろ他にあるのに美術士かっていうと、言葉で伝わらない事ってあると思うんですよね。それは誰でも持っていることで、ただ言葉では伝えられない事をいっぱいちょっと他の人よりか持っている人が障害者さんたちなんだと思うんですよ。言葉で伝えられないことがあるのだったら言葉で伝えよう伝えようと無理しなくても言葉以外の方法で伝えればいいと思うからです。たとえば表情だとか音楽とか絵とか。それで私が注目しているのが臨床美術士というように絵なんですけど。絵っていうのは人間が古代から情報を伝える手段として、言葉以外でおそらく一番最

初に使ってきた手段なんだと思うんですよ、壁画とかあるじゃないですか、象形文字とか。それで今情報化社会とか言われているんなものが言語化とか文章化されている時代だから、自分のことを言葉にできない人ってどんどん取り残されていっていると思うんですよ。それは言葉でしか伝わらないって思われている、むしろ思い込まれているから。だから言葉にならない声が、無かったことにされている、無視されているみたい。だから今私は言語とか文章にし得ない心の奥底を古代からある人間の知恵である絵で伝えることにすごく重要性を感じているんです。それはここにいる皆さんも同じだと思うんですよ。言葉にすることができない想いっていうのは障害者さんだけじゃなくて誰にでもあることなんですよ。だから無理して今会場で「なんて言おうなんて言おう」って「ここはどう言ったらいいんだろう」、「もっといい表現はないかな」ってたぶん手を挙げづらいっていうか「挙げるのをどうしようかな、どうしようかな」「うまく言えるか分からん」ってなって手が挙げられてない人ってたくさんいると思うんですよ。だからってさっき私が言ったように無理して言葉にしなくてもいいと思うんです。ちゃんと伝わりますよ、言葉以外でも。今は絵とか音楽とか使えないですけど、心があります。大丈夫ですよ。心でちゃんと伝わります。だから無理してぐるぐる「いい言葉にしよういい言葉にしよう」って考えなくても何でもいいんです。たった一言でも言いたいことはたぶんこの会場にいる皆さんには伝わると思います。（会場拍手）今のこの拍手も気持ちを伝える手段「音」ですよ。

司会者 絵と言えば大湾さんどうですか。

大湾さん ありがとうございます。ほな、

まあ、今から絵は描きませんが、n君のおばあちゃんの話のことすごく盛り上がりましたよね。あと弟のこと、自分が行った障害者施設のこと話してくれたんやけど。すごく人の話を聞いていてみんなすごいって思うのは人の経験を自分のことにきちんと落とししているところです。n君のおばあちゃんの話多かったです。みんなおばあちゃんおったりするからね、いたっていう身近な存在やから重ね合わせやすいわね。だけどまた弟のこと自閉症のこと障害者施設のこと、もしかしたら経験がないことかもしれないけど、こういう風にはとれかな。自分の中ではほんとは言いたいけど言えない、自分は強くなりきれていない部分を今一生懸命出してくれた二人の意見というふうに。講演で言うのを忘れていました。僕は被差別部落の人間です。言うのを忘れていました。別に言わなあかんわけではないけれど、隠す必要もないんです。今日は60分、正味55分の時間の中で、言う時間もなかったんですけど、昔は自分の立場をかくつしょうった人間、それが胸を張って言えるようになりました。それはどうしてかっていうたら、それまでは僕は隠さなければ人に差別される、人に思われることばかり考えていました。だけど今は違います。隠さずに僕は言います。「それはおかしいやん」、っていう人がいたら「何でおかしいの、偶然僕はここに生まれてただけ。うちの生んでくれた母ちゃんが部落の人間やっただけよ。それをおかしいって言うあんたがおかしいんよ」、って言えるようになってきました。しっかりと自分の言いにくい部分とか弱い部分をさらけ出していつてしっかりと強い人になっていつてほしいかなって思います。人前で泣くこと人前でどもってしまうこと、それは決して弱い事なんかじゃない、自分の言いたいことを自分なりの力で言えたら、すごい強い人間やと

思います。そんな姿をまたもう少し見せてもらえたらなと思います。

司会者 他にありませんか。

A中学校 W nさんの話を聞いて。僕にもおばあちゃんがいて、毎日アイスとかを買ってきてくれる優しいおばあちゃんなんです。が、ちょっとうっとおしい時とかがあつて僕もおばあちゃんにとってはつらい言葉を言ってしまうこともあるんですが、そういうのを言ってしまうと弟や妹がまねし始めているので、そういうことがないようにnさんの話を聞いて、まずは自分の悪いところを改善していきたいと思いました。



T中学校 x さっきからおばあちゃんがうっとおしくなってきたとかいう意見が出ていますけど、僕、もう見た感じからしてこの体からして、すごくおかに反抗期なんですけど、おばあちゃんに対しては反抗期はなくて、おじいちゃんおばあちゃんをうっとおしいと思ったことはないんです。最近うちのじいちゃん、ばあちゃんは何かしら韓国映画にはまっていまして、韓国ドラマですね。異常におじいちゃんちに行く韓国語で挨拶される、それがふざけの意味でのうっとおしさです。何でも韓国語なんです。「おいしいって韓国語でなんて言うか知つとるか。」「そんなん知らんわ。」つ

ていう。何でも韓国語なんで、ふざけた意味でそういう。正直なところを言うと、畑をしているので、毎週に1回くらいは野菜を持ってきてくれたりだとか。うちのおかんは絶対小遣いくれんし、「テストで1番とらな携帯買ったらん」とか、非常に厳しいおかんで。想像してください、身長が173cmあるんです。で、ここだけの話、顔がめっちゃでかいんです。めっちゃきれいずきなんで、潔癖症こえとって毎日掃除で、でも掃除するのは僕なんで。「おまえがせえ。」
「おまえがせえで。」バレーをしょって、バレーで国体まで出とんですよ。手が異常にでかいんでビンタされたらめっちゃ痛いんですよ。絶対逆らえない親なんで、「小遣いくれ」って言うてもくれんし、じいちゃんばあちゃんにくださいって言ったら500円くらいはくれるくらい。みんながうらやましいって言うたらうらやましい。みんなが携帯もってわあーってしていたら「いいなあ」って。実は昨日家に帰ってお母さんに「携帯買ってください。」って言うてみたんですよ。そしたらどういふ返事が返ってきたか。あんまり怒っていなかってちょっと上機嫌でちょっと酒飲んでいて酔うた感じで、「ああそうなん、おまえ、テストの点、今なんぼなん？」て聞くけん、「それは200点ちょっとかな。」っていったら「ほんなんでおまえ、携帯持っていけるんか。」っていつていきなり切れだして。これは絶対あかんですよ、切れだしたらそこからヒートアップして手と足が出てくるっていう状況で。めちゃくちゃ怖いですよ、また会う機会があつたらよんでみます。見たらたぶん分かるんですよ。でっかい人やなってますよ。ま、僕はじいちゃん、ばあちゃんはおうとおしいと思ったことはないんです、その韓国語のことだけで精一杯かなって言う感じです。
締めくくるのがへたくそなので、横にいる

s君にバトンタッチします。

C中学校 s バトンタッチされたsです。
また同じ人の話になるんですけどね。n君のやつなんですけど。僕がおばあちゃんに「うっとおしい」とか言っていたのは実質小学校6年生くらいから中学校2年生くらい後半までなんです。3年になってから「俺バカやったなあ」、ってごつつい思うんですよ。かっこつきたいんですよ。なんか一人がかっこいいなんて思ったりね。なんか晩飯も一人で食って、暗い部屋で一人でおってなんか孤立して、「孤立、かっこいいぜ」みたいな。そんな人だったんですよ。3年生になったらちょっと心が広がったんですよ。ま、よくわからん理由からなんですけど。何を言っても許せるようになったんですよ、許せんところもあるんですけど。ま、たとえば、ばあちゃん大音量でテレビを見るんですよ。さつき誰かが言っていたようにね。寝る時も見よるんですよ。ばあちゃん深夜のテレビとかも好きなんですね。1時くらいまで見よるんですよ。あまりにもうるさいんでばあちゃんの誕生日にヘッドホンプレゼントしてあげたんですよ。そしたら次の日から使うかなあと思って夜僕は布団に寝転がってさあ寝ようと思いましたが。下からすごい音が聞こえるんですよ。ずっとその日は金曜ロードショーがパイオハザードだったんですよ。下からバンバンバンバン音が聞こえてきてね、なんなんと思つてヘッドホン使っているのかなと見に行つたんですよ。テレビ見よるんですよ、横にヘッドホン袋に入つたままあるんですよ。何がしたいんな、と思つて「ヘッドホン、使わんの？」って聞いたら「使い方が分からん」って言われて。封開けて、テレビのさすところにさしてあげて。「こうやってつけるんよ」って。その日はいけたんですよ。おばあちゃんは物忘れが多いんでね、



次の日僕が寝ようとしたら急に上に来るんですよ。僕の部屋にね。「s, テレビの音が聞こえん。」って。「えっ、壊れたん。」降りていったんですよ。そしたらヘッドホンの線ささっとなですよ。で、ヘッドホン横にあるんですよ。「ほら、聞こえんわ。」って。すごいです。ヘッドホンあるんですよ。ヘッドホンから音聞こえんよんですよ、音聞こえとんのに無言のテレビを見てるんですよ。無言で見ながら「音聞こえんなあ。」って言いよんですよ。ヘッドホンから音聞こえよんですよ。無言のテレビ見よんですよ。びっくりします、一回家来てみたら分かります。せつかくテレビを新しくしたのにね、古い方を使いたがるんですよ。「こっちの方が見やすい」って言って古いのを持ってくるんです、前の家から。「こっちの方が範囲が狭いからが見やすい」って言って。けどこっちはヘッドホンさすところがないんですよ。穴がないんでまたおつきくするんでね。「なにをしょん、テレビ換えたん、え〜ってなりますよ。」

ま、締めれんのですけど。誰かふろうか。締められそうな人いますか。高浦の原田君、締めお願いします。

C中学校 a c n君の話を聞いてなんですけど、僕のばあちゃんは身近にいないんで遠くにいて、たまにしか会えなくてそのせいもあって嫌いではないんで、ま、好

きなんですけど、家に行って韓国語で挨拶されたりしません。

n君の話を聞いて、身近にいたらおばあちゃんの大切さとか気づかないところもあるんだなと思ひまして、僕はこのままおばあちゃん大好きで通っていきたいと思います。ありがとうございました。



W中学校 a d vさんの、絵があるって言うってたじゃないですか。そんなんて芸術家さんたちがかく絵とかと思うんですよ。そういう絵を見て何か思っ買ったりとか。そういうのに魅せられる人がいると思うんですよ。だからやっぱり絵には力があると思います。

G中学校 v さっきのa dさんの意見に付け足して、この前の大震災があつたじゃないですか。いつだったか忘れたんですけど、それでニュースで「現地に臨床美術士の資格を持っている人が出向いて、子どもたちと絵を描きました」って紹介するニュースがありました。見たんですよ、ほんのちょっとだったんですが、いくつが絵があつたんですが、臨床美術っていうのはレベルの高いのも見るかもしれないんですけど、基本的にはクライアントとの対話だと勉強したんですね。あの今のところは、知識不足なのでもしかしたら間違っているかもしれないんですけど、まだ勉強中です。それで、

ニュースで見たのは小学校低学年くらいの
そういう子の描いた絵だったのかな、それ
で印象に残っているのが、白い紙に緑と黒
を混ぜた深い緑の背景にピンク色でハート
が描いてあった女の子の絵だったと思うん
ですけど。それが黒には抑制とかの意味が
あって、緑にはヒーリング、落ち着くとか
の色の意味があって、ちょっと落ち着けて
ないっていう背景の上にピンクでハートで、
黒と緑を混ぜた背景だったのでピンクにそ
の色が混ざっちゃってちょっと紫っぽいと
いうかくすんだハートだって。それでコメ
ンテーターの人がその専門家の人に聞いた
みたいな感じで「やっぱりこういう色表現
になるのはなんか理由があるんでしょうか」
みたいなことを聞いて、それで「さっきの
緑が何」とか「黒が何」とか、というさっ
き説明したような説明が入って、そのへん
でテレビを見るのをやめちゃったんですけ
ど、今思ったら最後まで見ときゃよかった
なと。ちょっと時間なかったんで。それで、
今ちょっと即興でその意味を思い出します。
ちょっと待ってください。そのピンクって
いうのがふれあいとかコミュニケーションと
か抱擁的な色で、紫というのが色相環の中
でも光の波長が一番長いんだったか短い
んだったか忘れたんですけど、一番極端な感
じで、それで紫色に治癒効果があるってい
うのは今、医学的には分かっている。その
コメンテーターの人が背景の色から識別す
るに、その子は今落ち着いてないけど、ピ
ンク色でふれあいの心を求めている欲求が
出ている、この中に使われている紫色で自
分で自分の心を治癒しているんだよって
いうことが表れていますみたいな。という
感じの本をいくつか持っているんですけど。
クリニカルアート、臨床美術っていうのは
もっと簡単というかすぐ手が届く位置にあ
る表現方法かな。確かに空間象徴配置図と
かあって画面上側が無意識的な空間だとか

画面下は意識的な空間だとか右下は人生を
傍観する領域だとか画面右側はお父さんの
理由があって左側はお母さんの理由があ
ってみたいなものもあるんですよ。それ
を元にして描いている画家もいます、確か
に。やろうと思ったら誰でもできるものな
んです。画家はそのエキスパートみたいな
感じがするじゃないですか、その道に精通
した人が描いたからすばらしいみたいな。
でも、臨床美術で取り扱う領域というのは
一歳とか二歳とかのまだ殴り書き、腕の軌
跡で描かれるそういう絵とかでも通じると
いうか、もっと難しくない領域の話なんで
す。興味があつたら私に聞くか自分で調べ
るかしてください。



H中学校 t 今みなさんのさまざまな意見
を聞きながら、いろいろ思い出したことが
ありまして。自分がまだ小学校低学年の頃、
ドラえもんのスネ夫似の男の子が強面の男
教師と「くそじじい」とか叫びながら走り
回っている光景を見まして、なんかさっき
ふっと思い出して、後はもう一人人物を紹
介したいと思います。これは同じクラスの
不良系の男子のことなんですけど、その人
は仲間その友達と「あいつ『きちがい』じ
ゃよなあ」とか「『障害』じゃよなあ。」と
話していた光景とか その二つを思い出しま
して、それで皆さんの意見とか聞いてみん
な真剣に考えてくれていると思います。そ

れで私が思ったのは、もしも自分が病気になって事故とか自分の体が麻痺したりして障害者になったとしたらそのときに誰かに『障害』じゃよな、『きちがい』じゃよな。」と言われて笑われてどう思うのか。自分が障害者になった時に前と同じように「あいっつって『障害』じゃよな。」とか笑いながら言えるのか。後は自分必ず 老いがやってきます。みんな必ず年をとります。その時お年寄りのカテゴリーに入った時、誰かに「くそじじい。」と笑われて平気なのか。他の人に向かって「くそじじい」と言えるのか。全部差別って他人事でないんですよ。人種差別だって自分たちも一応日本人もかつては「イエロー・モンキー」とか言われて差別の対象でした。全部の差別、他人事じゃないんですよ。その辺を分かりつつ自分の身にこれから何が起こるかわかんないんで全部の差別を自分のこととして受け入れつつ考えつつ、これからまた話を続けていってくれたらいいと思います。それからこうやっぱりどうしても「自分でも思っていることあるのにちょっと怖くて手が挙げられない。話せない。人の前で話すのがちょっと怖い」という人がたぶんいると思うんですよ。正直言って自分が小学校の頃、そんなんでしたね、低学年とかは。なのでこう正直言って自分はそんな人を無理に発表させることはないと思うんでとりあえず自分のこと、差別を他人事として思わず自分のこととして心で思っていてください。

H中学校 d oさんの「家族の生き方から学んだこと」を聞いて。自分の家も散髪屋です。私のお父さんと働きに来ているお兄さん一人で営んでいるんですけど。oさんの所にも障害がある方が来るように高齢者の方とか来てくれて、バリアフリーではないんですが、段差はあるんですよ。そんなユニバーサルデザインかな、そんなにして

ないけど、そこはお手伝いとかして、oさんの所のように車で送ったりとか手伝っています。それと最近前に外国人の方が、散髪に来てくれたお客さんの知り合いの外国人が来てくれてうれしかったです。昔は人種差別とかがあって交流とかがなかったけど今は交流とかがあって来てくれてうれしかったです。喜んで帰ってくれるという場があったことがうれしかったです。散髪という職業も人と人とがつながれるし父さんの散髪している姿とか見ていてもめちゃ楽しそうやし、お客さんから学んだこともあるし、父さんが思っていることをお客さんと一緒に考えて散髪しながら話したりして、そういう職業の一つ一つにこういうのがあって人と人の輪が広がっていったらなと思いました。



司会者 まだまだ発表はあると思いますが、このあたりで午後の一部の話し合いを終了し10分間の休憩を取りたいと思います。10分間後には元の席に戻ってきてください。